

I

耕織風俗圖屏風



1 女性の仕事・子供の遊び

農家の母屋の室内に3人の女性が糸車を回し、糸を紡いでいる。蚕棚の蚕盤のなかは桑の葉であろう。季節は春であろうか。女性たちは年齢が異なるようだが、糸車で糸を紡いでいる女性を中心に集まっている。機織や糸紡ぎなどは主に女性の仕事とされた。糸紡ぎは、それほど厳しい労働力を必要とはしないが、単調な動作を繰り返すことから、女性たちは、歌を歌ったり、楽しい会話をしながら退屈を紛らわせた。

糸車を回している女性はあげ髪をし、糸巻きの管を手にしてしているもう一人の女性は後髻をしている。朝鮮時代中期までは、既婚の女性はお下げ髪を後ろから編み、頭の上に乗せて固定する巻上げ髪にしたが、中期以降から髪を後ろに髷のようにまとめる髷髪（後髻）に変わっていった。巻上げ髪と髷髪が並存しているのは、その移行の過渡期の表現だろうか。巻上げ髪の女性は、半回装チョゴリに、その下に帯を締めていることから、庶民のなかでも身なりが整った女主人のように見受けられる。画面の中央には、犁や鋤が壁に立てかけられており、手広く農業をしている豊かな農家であることを示している。

屋敷は生垣に囲まれ、草葺き上屋の枝折戸からは水甕を頭上に載せて運搬する女性が入ろうとしている。井戸から汲んだ水を運んでいるのであろう。水は女性が素焼きの水甕で頭上運搬するのが一般的であった。屋敷内には庭木はなく、広い空間となっており、秋には庭仕事の場所となるのであろう。

その空間に少年たちが集まり、遊びをしている。地面に小石が並べられていることから、ゴヌ遊びを



していると思われる。ゴヌは庶民の遊びで、子供から大人まで楽しまれていたが、屋外でのゴヌは主に少年の遊びであった。ゴヌの盤を想定した図面を地面に描き、小石は駒として使われた。小石を動かすことで勝負を競う遊びで、将棋や囲碁の原初的なものとされて、地棋ともよばれた。4人の少年の前に小石が置かれており、この4人がゴヌ遊びをしてい



- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 草屋根 | 1 초가지붕 |
| 2 垂木 | 2 서까래 |
| 3 明り障子 | 3 띠살문 |
| 4 蚕棚 (蠶架) | 4 누에시렁 |
| 5 三角帽子 | 5 곯갈 |
| 6 チョゴリ (ミンチョゴリ) | 6 민저고리 |
| 7 チマ | 7 치마 |
| 8 卷上げ髪 | 8 엷은머리 |
| 9 チョゴリ (半回装) | 9 반회장저고리 |
| 10 腰帯 | 10 허리띠 |
| ⑪ 糸車 | ⑪ 물레 |
| 12 管卷 | 12 왕채 |
| 13 重石 | 13 물랫돌 |
| 14 錘台 | 14 괴머리 |
| ⑮ 糸を紡ぐ | ⑮ 실을 잣다 |
| ⑮ 片膝立て | ⑮ 한쪽 무릎을 세우고 앉다 |
| 17 管 | 17 가락 |
| 18 髻髪 (後髻) | 18 쪽진머리 |
| 19 簪 | 19 비녀 |
| 20 筵 | 20 돛자리 |
| 21 柱 | 21 기둥 |
| 22 礎石 | 22 주춧돌 |
| ⑳ 犁 | ⑳ 쟁기 |
| 24 犁先 | 24 보습 |
| 25 練木 | 25 성에 |
| 26 練先 | 26 까막머리 |
| 27 熊手鋤・三本鋤 | 27 쇠스랑 |
| 28 チョゴリ | 28 저고리 |
| 29 パッチ | 29 바지 |
| ⑳ 両膝立て | ⑳ 양쪽 무릎을 세우고 앉다 |
| 31 お下げ髪 | 31 땅은머리 |
| 32 上衣 (小氈衣) | 32 창옷 |
| 33 藁履 | 33 짚신 |
| 34 たればかま風のパッチ (オングパッチ) | 34 옹구바지 |
| 35 木履 | 35 나막신 |
| 36 巾着 | 36 행낭 |
| 37 脚絆 | 37 행진 |
| 38 皮履 (バルマク) | 38 발막 |
| 39 水甕 | 39 물동이 |
| ④① 頭上運搬 | ④① 머리에 이고 나르다 |
| 41 枝折戸 | 41 사립문 |
| 42 門柱 | 42 문설주 |
| 43 草葺き上屋 | 43 초가지붕문 |
| 44 生垣 | 44 산울타리 |

るところに、右側からもう一人の少年が加わろうとしている。その少年はチョゴリの上に、さらに小氈衣と呼ばれる上衣を着て、パッチは脚絆でまといわれていることから、少年の中では年長のように見える。口に何かをくわえている子供は、遊び仲間に入れず、ゴヌ遊びを眺めている様子である。口にくわえているものが何かははっきりと読み取れないが、おそら

く他の風俗画にもよく描かれる風車であろう。服装も男女の区別なく、小さい子供が日常的に着用するたればかま風のパッチに、木靴(ナマックシン)を履いていることから、少年の中ではもっとも年少であることがわかる。(金)

2 洗濯物を干す



山あいの農家の家の内外で働く人々の姿が描かれている。草屋根の軒先には庇が付設され、その屋内の続き間が見えている。手前の部屋の上がり口には踏み石があり、部屋の中には男と2人の子供が座っている。男の前には筵編機がある。筵編機の前後に

男の両手が描き分けられ、編んでいる最中であることがわかる。右側の2人の子供は、ともに書を開き、勉強をしている様子である。男が子供達に読み方を教えながら、筵を織っているのだろう。奥の部屋の左側には文箱が置かれ、その上に帙に包まれた書物

1 卷上げ髪	1 엷은머리	16 顎鬚	16 가잠나룻
2 洗濯物を干す	2 빨래를 말리다	17 上衣 (小氈衣)	17 창옷
3 チョゴリ	3 저고리	18 筵編機	18 자리틀
4 チマ	4 치마	19 薦槌	19 고드랫돌
5 物干紐	5 빨랫줄	20 筵を編む	20 돛자리를 짜다
6 物干棹	6 바지랑대	21 藁束	21 벧짚
7 腰帶	7 허리띠	22 筵	22 돛자리
8 草屋根	8 초가지붕	23 正座する	23 무릎을 꿇다
9 垂木	9 씨가래	24 パッチ	24 바지
10 庇	10 차양	25 書物	25 책
11 持送り	11 지겟목	26 お下げ髪	26 땅은머리
12 角柱	12 모기둥	27 片膝立て	27 한쪽 무릎을 세우고 앉다
13 帙 <small>ちつ</small>	13 책궤	28 履物	28 신
14 文箱	14 문갑	29 踏石	29 십들
15 冠 (四方冠)	15 사방관	30 瓢箪	30 박

가의세られている。男は四方冠をかぶり、ソ Chan-i (小氈衣) という上衣を着ており、農民としては身なりが良い。文の習得に勤んでいる点は、科挙に合格することに重きを置いた社会背景を窺わせる。

屋外の林寄りに、女性と子供の姿が見える。2人の前には、洗濯物が見える。上衣、チマ、帯が洗濯紐にかけられ、その紐の端は自然木に結わえられている。洗濯紐は洗濯物の重みで垂れ下がるものだが、ここでは、竿で紐の中程を支えている。女性の髪型は卷上げ髪であり、既婚者であることが分かる。チマの端を腰で止めてたくしあげており、足元が見える。向かい合う子供は女の子である。洗濯物を干す手伝いをしているのであろう。洗濯物を干す女性の日常の姿が描かれて

いる。

女性が洗濯をする場が風俗画に描かれることは少なくないが、洗濯物を干す行為自体を描くことはとても少ない。この絵からは、洗濯物を日本のように物干し竿で干すのではなく、紐で干していることに気づく。また、儒教倫理に従い、男女間に厳しい区別を設けた朝鮮時代においても、男性の洗濯物と女性の洗濯物を分け隔てなく干していることも分かる。いずれの干し方も、現在との間に大きな変化は認められず、今につながる習俗であることが分かる。なお、朝鮮半島の農村部では現在でも、物干し竿は少なく、紐で干すことが一般的であり、洗濯物の重みで垂れ下がる洗濯紐を支える竿の名称も多様である。例えば、全羅南道ではカンデ、慶尚南道ではチャクトゥバリなどともいった。(中野)

3 頭上運搬と背負い運搬

ものを運搬する2人の女性と1人の少年を描く。画面左側の2人の女性が頭上運搬している籠は、脚の付いた小さな飯台の上に乗せているので、食べ物が入っていると思われる。籠はかなり大きく描かれており、多人数の食事を運搬しているようにみえる。食べ物の頭上運搬は飯台に乗せて運ぶのが一般的であった。籠の縁は、異なる色が交互に配置されており、装飾的にみえるが、材料は竹もしくは樹皮なのか、それとも彩色を施しているものなのか不明である。

女性の服装は、白のミンチョゴリに、単色のチマを着ている。チョゴリはかなり短く、頭上に載せた飯台に手を伸ばしているため、短いチョゴリの下から胸が見えている。庶民の女性の中では、必ずしも腰帯で胸を被わない場合もあったようである。2人ともに活動しやすくチマの裾を腰の辺りまで巻き上げ、丈の長さを短くしている。チマは裾を左から右へと回すゴドルチマにしており、右から左へと回す妓女と区別し、良民であることが示されている。チマの下には下着のパッチがみえる。パッチも労働の際には紐で結んでいた。

右上の土橋を渡る少年は、背負梯子に壺を載せて運んでいる。手に持っている息杖は、先が二分になっており、背負梯子を支えるためのものである。2人の女性と一行であれば、壺の中には、食事に伴う酒が入っているであろう。背負梯子は脚が短い小型のようである。土橋は、松の木で橋脚を作り、橋桁の上にも松の枝を広げてその表面を土で覆いかけている。(金)

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 風呂敷 (襦) | 1 보 |
| 2 籠 | 2 광주리 |
| 3 飯台 | 3 사각반 |
| 4 手拭い頭巾 | 4 쓰개수건 |
| 5 チョゴリ (ミンチョゴリ) | 5 민저고리 |
| 6 たくし上げたチマ (ゴドルチマ) | 6 거들치마 |
| 7 腰帯 | 7 허리띠 |
| 8 下着のパッチ | 8 바지 |
| 9 チマの裾を持つ | 9 치맛자락을 쥐다 |
| 10 杖 | 10 지팡이 |
| 11 藁履 | 11 짚신 |
| 12 巻き上げ髪 | 12 얹은머리 |
| 13 胸を露出する | 13 젖가슴을 노출하다 |
| 14 頭上運搬 | 14 머리에 이고 나르다 |
| 15 土橋 | 15 쉼다리 |
| 16 覆い土 | 16 흙 |
| 17 若松の枝 | 17 잔솔가지 |
| 18 橋脚 | 18 교각 |
| 19 橋桁 | 19 다리목 |
| 20 酒瓶 | 20 술병 |
| 21 背負梯子 (チゲ) | 21 지게 |
| 22 背負梯子の爪 | 22 지꿌가지 |
| 23 ざんばら髪 | 23 다팔머리 |
| 24 肩衣 | 24 등거리 |
| 25 股引 | 25 잠방이 |
| 26 裸足 | 26 맨발 |
| 27 犬 | 27 개 |



4 男の田起こし・女の種子播き

1 草笠	1 초립	20 犁先	20 보습
2 チョゴリ	2 지고리	㉑ 犁で耕す	㉑ 쟁기질하다
3 熊手鋤・三本鋤	3 쇠스랑	22 冠（宍巾）	22 당건
4 パッチ	4 바지	23 上衣（中致莫）	23 중치막
5 脚絆	5 행진	24 長煙管	24 장죽
6 藁履	6 짚신	25 皮履（バルマク）	25 발막
7 髻（メンサントウ）	7 맨상투	26 手拭い頭巾	26 쓰개수건
8 股引	8 잠방이	27 チョゴリ（ミンチョゴリ）	27 민저고리
9 裸足	9 맨발	28 チマ	28 치마
10 黄牛	10 황소	29 下着のパッチ	29 바지
11 鼻木	11 코뚜레	㉒ 種子をまく	㉒ 씨를 뿌리다
12 軛 <small>くひき</small>	12 멩에	31 畠	31 밭
13 腹帯	13 배대끈	32 豎畝	32 밭두둑
14 引き綱	14 밧줄	33 畦	33 논두렁
15 手綱 <small>しりがせ</small>	15 고삐	34 作場道	34 길
16 尻枷	16 물주리막대	㉓ 土橋	㉓ 싯다리
17 練木	17 성에	36 橋桁	36 다리목
㉒ 犁	㉒ 쟁기	37 若松の枝	37 잔솔가지
19 犁身	19 술	38 橋脚	38 교각

春の水田耕起の様相を描いている。図の下部に水の流れが描かれ、その横の平坦地での作業であるので水田と考えてよいであろう。中央部では犁を牛に曳かせて田起こしをしている。犁は床がほとんどない短床犁である。牛の前では、2人の男性が熊手鋤（三本鋤）で耕起作業をしている。これと犁による耕起作業との関係は絵からは明確に判断できないが、犁によって荒起こしをした土塊を細かく碎く作業をしていると見られる。ただし犁による耕起と鋤による作業の位置関係は不自然である。水田の上手

には、帽子を被り、ゆったりした上衣を身につけ、長煙管で煙草をすう男性がいるが、これはこの土地を所有する地主であろうか。耕起作業の監督をしているものと思われる。

背景のように描かれる土地は傾斜があり、水田ではなく、畝がたてられた畠と判断される。ここでは2人の女性が左手で種子の入った器を抱え、右手で種子播きをしている。いずれも裸足である。

水田は男性、畠は女性という性的分業が存在したことを表現していると考えてよかろう。（福田）



5 鋤で耕す



① 鋤 (カレー)	① 가래
2 風呂	2 군두
3 鋤先	3 가랫날
4 留金	4 꺾쇠
5 鋤柄	5 자루
6 引き綱	6 가래줄
7 鋤で耕す	7 가래질하다
8 髻 (멘サントウ)	8 맨상투
9 顎鬚	9 가잠나룻
10 チョゴリ	10 저고리
11 たくし上げたパッチ	11 걷어올린 바지
12 裸足	12 맨발
13 上半身裸	13 상반신을 드러내다
14 三角帽子	14 곳갈
15 煙管	15 곱방대
16 パッチ	16 바지
17 焚き火	17 모닥불
18 ざんばら髪	18 다팔머리
19 たればかま	19 옹구
20 荷鞍	20 길마
21 黄牛	21 황소
22 胸懸	22 가슴걸이
23 頭絡	23 우넝기
24 鼻木	24 코뚜레

男達が鋤 (カレー) で耕作をしている様子を描いている。脇の木には若葉が芽吹き始めており、季節は春であろう。右奥に水の流れらしきものが描かれていることなどから、この耕地はいまだ水が引かれていない水田である可能性が高いが、畝らしきものが見えるため、畝である可能性も否定できない。

耕地には3人の男が裸足で入り、1人が長い柄を握って鋤を押し、2人がそれぞれ引き綱を持って、鋤を引いている。鋤先は土にめり込み、2人とも後ろ足に体重を乗せて引いている。鋤を引く男はパッチの裾や袖をあげ、鋤を押す男は半裸で腰を折って力を込めており、汗をかくほどの力仕事であることが分かる。

左上方にも3人の男と、鋤が見える。煙管で煙草を吸う男、片手をついて座っている男、そして、横

たわっている男も見え、3者の間にはたき火の煙らしきものがある。手前の男はパッチの裾をあげ、裸足だが、他の2人は、たとえば、煙草を持つ男が靴を履いているように、未だ働いた様子がない。耕地を耕す手伝いに来ている者達であろう。

後方には少年と牛が見える。牛の背にはたればかまが装着され、その下部は荷の重みで垂れ下がっている。この部分は開閉が可能であり、一般に蔬菜類、土、石、堆肥などの運搬に用いられたが、ここでは中に何が入っているのかは見えない。

鋤は、田畑の耕起や田の畦畔づくりに用いられた。朴趾源が編纂した農書『課農小抄』(1799)は、綱つきの鋤が、中国にはない独特なもので、土を起こす機能に優れているとし、その使用を推奨している。丁学游の『農家月令歌』(1816)3月の歌には鋤が読み込まれており、当時広く使用されていたことが窺える。セソンモクといい、3人が1組となって1つの鋤を引くことがよく知られているが、鋤を2つ連結させ、6人で利用していたことも禹夏永の『千一録』(1796～1804)に見える。二毛作や耕地の条件により、耕起作業は、人数を増やし、プマシ(日本のユイに相当)で行うこともあったが、1、2人で引き綱のない鋤を用い、小規模に済ませることもあった。(中野)

6 秋の稔りの庭仕事

- | | |
|------------------|-----------|
| 1 鬘 (メンサントウ) | 1 맨상투 |
| 2 肩衣 | 2 등거리 |
| 3 巾着 | 3 행낭 |
| 4 たくし上げたパッチ | 4 걷어올린 바지 |
| 5 裸足 | 5 맨발 |
| 6 唐竿 | 6 도리깨 |
| 7 杵 | 7 날알 |
| 8 俵 | 8 벧섬 |
| 9 筵 | 9 돛자리 |
| 10 穀物入れ | 10 먹등구미 |
| 11 チョゴリ | 11 저고리 |
| 12 結び紐 (ゴルム) | 12 고름 |
| 13 パッチ | 13 바지 |
| 14 脚絆 | 14 행진 |
| 15 箕 | 15 키 |
| ⑬ 摺臼 | ⑬ 매통 |
| 17 軸木 | 17 어깨기둥 |
| 18 柄 | 18 손잡이 |
| 19 裾紐 | 19 대님 |
| 20 藁にお | 20 짚가리 |
| 21 三角帽子 | 21 곳갈 |
| ㉒ 箕で篩う | ㉒ 키질하다 |
| 23 老婆 | 23 노파 |
| 24 チョゴリ (ミンチョゴリ) | 24 민저고리 |
| 25 チマ | 25 치마 |
| 26 竪杵 | 26 공이 |
| 27 竪臼 | 27 절구통 |
| 28 竹箒 | 28 대비 |
| 29 杵 | 29 고무래 |
| 30 切妻 | 30 맛배집 |
| 31 草屋根 | 31 초가지붕 |
| 32 明り窓 | 32 살창 |
| 33 垂木 | 33 씨가래 |



収穫後の庭仕事の様子を描いている。切妻型の母屋の前庭における脱穀作業の順序が一通り示されている。左側で先ず唐竿による脱穀（稲穂から杵を打ち落とす）、その右側では筵を敷いた上に摺臼を据えて脱穀（杵から杵殻を取り除く杵摺り）の様相、

そしてその右側では箕を用いて米と杵殻をふるい分けている。さらに上部では、老女が竪杵を用いて木臼に向かって作業をしているが、これは玄米から糠を取り除く米つきを示すものと思われる。作業順に描いているが、これらの作業が同時に行われるわけ



ではない。また俵や藁におの位置には不自然なものがある。

ここに描かれた人物は、竪杵を使う老女以外は全て男性である。水田の耕起作業も収穫後の庭仕事も基本的に男性の仕事であったことが分かる。男性で

ただ一人作業に従事していない人物が中央部に描かれている。両手を後ろ手に組んで立って、作業の様子をながめているが、上着を着けておらず、冠り物も被っていないので、この家の主人とは考えにくい。(福田)

7 稲束を打ちつけ脱穀

1 稲束	1 벃단	29 黒衣 <small>こくゐ</small>	29 장삼
2 ざんばら髪	2 다팔머리	30 背囊 <small>はいのう</small>	30 바랑
3 チョゴリ	3 저고리	31 腰を屈めて合掌する	31 허리를 굽혀 합장하다
4 パッチ	4 바지	32 草屋根	32 초가지붕
5 脚絆	5 행진	33 寄棟	33 우진각
6 稲束を打ち付けて脱穀する	6 벃단을 쥐고 태질하다	34 垂木	34 써가래
7 上半身裸	7 상반신을 드러내다	35 庇	35 차양
8 藁履	8 짚신	36 開き戸	36 장지문
9 脱穀台	9 개상	37 取っ手	37 문고리
10 粃	10 낱알	38 火箸	38 부젓가락
11 髻 <small>(メンサントウ)</small>	11 맨상투	39 火鉢	39 화로
12 巾着	12 행낭	40 縁側	40 툃마루
13 顎鬚	13 가잠나룻	41 束	41 동자기둥
14 笠	14 삿갓	42 柱	42 기둥
15 結び紐 <small>(ゴルム)</small>	15 고름	43 礎石	43 주춧돌
16 股引	16 잠방이	44 突き上げ戸	44 들창
17 裸足	17 맨발	45 突き上げ竿	45 걸개
18 竹箒	18 대비	46 火防壁	46 화방벽
19 俵	19 벃섬	47 草葺き上屋	47 초가지붕문
20 俵を締める	20 벃섬을 묶다	48 門柱	48 문설주
21 冠 <small>(四方冠)</small>	21 사방관	49 門扉	49 문비
22 上衣 <small>(小褌衣)</small>	22 창옷	50 棧	50 띠장
23 脱穀を監督する	23 탈곡을 감독하다	51 藁壁	51 짚벽
24 裾紐	24 대님	52 生垣	52 산울타리
25 木履	25 나막신	53 醤油甕	53 장독
26 杖	26 지팡이	54 甕置き台	54 장독대
27 托鉢僧	27 탁발승	55 藁にお	55 짚가리
28 山形の頭巾	28 곶갈		

庭に植えられた庭木も葉が色づき、建物の縁側には火鉢が出されている。秋も深まった農家の風景である。寄棟造りの草屋根の建物があり、その脇には門扉を付けた門、さらに屋根を備えた物置などが続き、全体として屋敷を囲い込んでいる。絵の手前には2棟の建物が描かれているが、その前に生垣が結ってあり、別の屋敷であることを示している。庭の中央部では脱穀用に置かれた大きな自然木の脱穀台に稲束を打ち付けて、稲穂から粃をはずす脱穀作業を4人の男性が行っている。粃はそのまま俵詰めされたものと思われるが、絵では脱穀した粃を竹箒で掃き寄せている様相が描かれている。そして、その横には俵が置かれているが、この俵はすでに詰め

終えて満杯になっている。俵詰めをする役目の2人の男性が、俵の上ののりかかり一生懸命俵を締め付けている。この庭仕事も全員が男性であり、女性の姿は見られない。稲穂を打ち付けて脱粒させる脱穀法は、日本では見られないが、中国では今日でも盛んに行われており、朝鮮半島でもその方法が採用されていたことが知られる。

木の下に四方冠を被り、上衣を着、木履を履いて、長い杖を持った男性が作業の様相を見ている。この家の主人であろう。その男性に向かって深々と頭を下げ、手を合わせている黒衣の男性がいる。家々を訪れて、喜捨を求める托鉢僧である。(福田)



8 碓を搗く女



農家の庭にある搗き屋を描いている。左上には甕置き台が描かれていることから、搗き屋は屋敷内の裏側に設けられていたと思われる。徐浩修の『海東農書』（18世紀末）によると、中国や日本では一直線の1本の杵が一般的であったが、朝鮮では1本の踏み台の杵と2本（叉木）のものが併用されていた。この図には、杵の端に叉木が用いられ、2人が屋根裏から垂れている支え綱を握って、杵の端の踏み台

に体重を乗せて搗く、いわゆるY字型の踏臼が描かれている。『春雑記』によると、碓は横木を渡してそれにつかまりながら搗くのが一般的であるが、天井から垂らした綱につかまって体の均衡を保ちながら搗く方法は、踏む力が均等でないため、横木を使う場合より疲労が多いという。それにもかかわらず、このような型の踏臼が使われたのは、能率が良いという理由があったのであろう。



- | | |
|----------------------------|--------------|
| ① からうす 碓 | ① 디딜방아 |
| 2 踏み台 | 2 방아다리 |
| 3 支柱 | 3 쌀개 |
| 4 横木 | 4 망아채 |
| 5 杵 | 5 망앗공이 |
| 6 臼 | 6 환 |
| 7 鬘 (ブクサントウ) | 7 북상투 |
| 8 鉢巻 | 8 머리띠 |
| 9 子供 | 9 아이 |
| 10 おんぶ紐 | 10 포대기 |
| 11 チョゴリ (ミンチョゴリ) | 11 민저고리 |
| 12 たくし上げたチマ(ゴドルチマ) | 12 거들치마 |
| 13 下着のパッチ | 13 바지 |
| 14 藁履 | 14 짚신 |
| 15 子供を負ぶう | 15 아이를 업다 |
| 16 支え綱を持つ | 16 손잡이 줄을 쥐다 |
| 17 手拭い頭巾 | 17 쓰개수건 |
| 18 履紐 | 18 들메 |
| 19 碓を搗く | 19 디딜방아를 찧다 |
| 20 老婆 <small>きびぼうき</small> | 20 노파 |
| 21 黍 箒 | 21 수수비 |
| 22 木槌 | 22 나무망치 |
| 23 俵 | 23 벗섬 |
| 24 俵を締める | 24 벗섬을 묶다 |
| 25 鬘 (メンサントウ) | 25 맨상투 |
| 26 チョゴリ | 26 저고리 |
| 27 結び紐 (ゴルム) | 27 고름 |
| 28 パッチ | 28 바지 |
| 29 脚絆 | 29 행진 |
| 30 醤油甕 | 30 장독 |
| 31 甕置き台 | 31 장독대 |
| 32 搗き屋 | 32 방앗간 |
| 33 角柱 | 33 모기둥 |
| 34 貫 | 34 인방 |
| 35 礎石 | 35 주춧돌 |
| 36 草屋根 | 36 초가지붕 |
| 37 垂木 | 37 서까래 |
| 38 藁壁 | 38 짚벽 |
| 39 押さえ縄 | 39 새끼줄 |

この場面では、碓が民家の庭の一角に設けられているが、実際は各戸が搗き屋を持つことは少なく、村共同で利用・管理する搗き屋が一般的であった。

碓を搗く作業は主に女性の仕事であった。図の中に、子供を背負う女性は鉢巻をし、チマの下に見えるパッチは紐で止められ、藁履はドルメと呼ばれる結び紐で結んでいる。チマはたくし上げられ、腰紐で留められており、労働をする庶民の女性の典型的

な姿である。搗き屋右下の老女は箒で臼からこぼれ落ちた穀物を掻き集めている。

その左側の男性は、身体を丸めて脚を俵の上に置き、両手で縄を引っ張っているような姿勢であることから、俵を締めている動作と見受けられる。俵の端には棧俵が確認できることから、この時代にすでにこのような俵が使われていたことが推測できる。(金)

9 小正月の月迎え

1 満月	1 보름달	22 お下げ髪	22 땅은머리
2 稲竿 (ビョッカリッテ)	2 벃가릿대	23 老婆	23 노파
3 草屋根	3 초가지붕	24 巻上げ髪	24 엮은머리
4 垣根	4 울타리	25 チョゴリ (ミンチョゴリ)	25 민저고리
5 垂木	5 써가래	26 チマ	26 치마
6 柱	6 기둥	27 下着のPATCH	27 바지
7 明り窓	7 살창	28 子供	28 아이
8 火防壁	8 화방벽	29 子供を負ぶう	29 아이를 업다
9 甕の蓋 (ソレギ)	9 소래기	30 チョゴリ (半回装)	30 반회장저고리
10 醤油甕	10 장독	31 子供を抱く	31 아이를 안다
11 チョゴリ	11 저고리	32 犬	32 개
12 巾着	12 행낭	33 鬚 (メンサントウ)	33 맨상투
13 たればかま風のPATCH (オングPATCH)	13 옹구마지	34 顎鬚	34 가잡나룻
14 裾紐	14 대님	35 両手を袖に入れる	35 양손을 소매 자락에 지르다
15 藁履	15 짚신	36 脚絆	36 행전
16 防寒帽 (風遮)	16 풍차	37 石垣	37 돌담
17 上衣 (小氈衣)	17 창옷	38 藁にお	38 짚가리
18 杖	18 지팡이	39 草葺き上屋	39 초가지붕문
19 皮履 (バルマク)	19 발막	40 門柱	40 문설주
20 PATCH	20 바지	41 門扉	41 문비
21 少女	21 소녀	42 生垣	42 산울타리

陰曆正月15日の満月を拝むために外へ出てきた人々を描いている。道を挟んで寄棟の家屋があり、家屋のまわりに醤油甕が見える。家の敷地は生垣や石垣で囲われ、門が設けられている。ところどころに樹木が植わっている。家屋の脇には稲竿(ビョッカリッテ)も描かれている。通り沿いのムラが背景である。

杖をつき、ポンチャ(風遮)という防寒帽をかぶっている者、袂に手を入れている男の子、そして、背中をまるめた若者の様子から、外気の寒さが伝わってくる。左側の男の子は父親らしき男に手をひかれ、反対側の女の子は、赤ちゃんをおぶった年配女性に寄り添っており、大人に促されて外に出てきた様子が窺える。手前の若者は家屋の方を眺め、月には関心がない様子だ。家屋内に人が見えず、全ての者が表通りに出てきて一緒に月を見ている。当時の

月迎えの過ごし方を窺うことができる。

正月15日、日本でいう小正月の行事は、祭儀、遊び、占いなど数多い。この夜に、月迎えをする習俗もその一つで、人よりも早く月見をすると吉であると考えられていた。満月に祈りを捧げると願いが叶うとされ、また、月を見てその年の天候や作物の収穫を占った。この晩は、藁や松で小屋を作って焼いたり、隣村との間で松明合戦を行ったりした。

ビョッカリッテという竿を立て、藁で穀物の穂を作ってその上に吊るす行事も小正月に行われた。豊年を祈願する予祝儀礼である。朝鮮時代、宮中でも同様の行事が行われ、竿の高さや作り物(鳥、獣、昆虫、草木)を競う風が強くなり、後に中止されたほど流行した。現在でも、この行事は一部の農村で伝承されている。(中野)

